

令和2年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

【日 時】

令和2年12月25日（金） 午後3時～5時

【場 所】

船迫生涯学習センター2階 会議室1・2

【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 7名 ※3名欠席
事務局（柴田町まちづくり政策課） 3名

【資 料】

- ①令和2年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会次第
- ②令和2年度第2回柴田町男女共同参画推進審議会協議の進め方について
- ③第5次しばた男女共同参画プラン 施策ツリー（案）
- ④第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての
基本的な考え方（素案）概要〔参考〕
- ⑤関係各課から提出された施策策定に係る事前分析シート（21枚）
- ⑥第5次しばた男女共同参画プラン 計画の体系（案）
- ⑦第4次しばた男女共同参画プラン 達成状況と評価（案）

【内 容】

進行：事務局（鹿又）

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

【議 事】

1. 開 会

2. 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。

今日はいつもと違う会場ですが、この会場はかつて有志による男女共同参画の条例づくりの時に、夜な夜なここで勉強会をした懐かしい場所です。

さて、コロナ感染症関係で、第三波ということで感染症の勢いがますます増えています。ソーシャルディスタンスは重要ですが、人との繋がりにおいて、自助、互助、共助、公助の4つのうちの互助がこれほど重要だと示されたことはかつてなかったので

はないかと考えます。片親の家庭が食べていけないとか、いろんな弱いところに障害や影響を及ぼしているようです。

それでは、本日も皆さんのご意見をしっかりと伺っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3. 議 題

【審 議】

第5次しばた男女共同参画プラン策定に係る施策の整理について

～事務局から資料等の説明～

<会長>

今回の資料は、いつもの見慣れた枠組みとは変わってサイズが大きくなり、かつ国の施策や第4次しばた男女共同参画推進の比較があり、事業においては新規なのか継続なのかということが込められております。この水色の第4次しばた男女共同参画プランとの比較のところ、もし委員の皆様から「こういった具体的な取組を町は必要としているのではないか」等、意見がございましたらお伺いしたいと思います。

<委員>

質問です。新規の意味ですが、新規となると事業が大きくなっているということなので、この男女共同参画全体について、町で予算を増やしたとか、新規のために予算がついたとか、そういう意味ですか。

<事務局>

予算がついているかどうか、そこまで内容は詰めていませんが、関係各課に照会する際、できる施策等を提案してくださいと声をかけたところ、このような事業があがってきたということです。

<委員>

では、今年度の男女共同参画に対しての町の全体の予算は今わかりますか。

<事務局>

全体的には把握しておりません。

<委員>

希望というか、書いてあるのは実践できるという意味ですよね。予算がないからとか、そういうことではなくて。

<事務局>

補足になりますが、新規事業については現在調整中ですが、ここにあげている事業は今までやっていなかったものを全て掲載しているというわけではなく、今までやってきたのだけでも、男女共同参画という視点でやっていけるというのを取り入れて、継続的にやるという事業まで入っています。今までやっていなかったものをここに全て載せているというのではないということをご理解いただきたいと思います。

<委員>

わかりました。

<会長>

今のは質問だったのですが、そのほかもう少し確認してみたいことはございますか。

<委員>

職場における男女共同参画の実現というところで、女性の管理職への積極的登用とありますが、これって役場の中だけの事業ですよ。だから、柴田町全体として見た時に、各企業の女性の管理職の登用ができているとか、そういったことが把握できないでいるんじゃないかなと。難しいと思いますが、職場は役場だけではないので、そういったところも新規としてあってもいいのかなと思いました。

<会長>

私が事務局にお伺いしたいのは、「2-4 高齢者・障がい者に対する福祉や支援の充実」というところで、第4次しばた男女共同参画プランとの比較では、全て継続になっております。昨今いろんな情報が入ってくる中で、経済的に困窮している生活困窮者や一人暮らしの高齢者は移動手段が無く、タクシーを使わなければ移動ができない。この間も高齢者が一人でタクシーに乗って、何とか買い物に来ている様子も見受けられたことがあったのですが、ある地域では一週間ごとに食料をパックして、シングルマザーのところに届けているというニュースも見ました。そのような、例えばコロナ禍における緊急的な予算とかはどうなっているのか、伺ってもよろしいですか。

<事務局>

具体的な内容を申し上げるのは難しいところがあります。

ただ、今、委員の皆さんからいろいろお話を出していただいて、確認できるものは確認し、後日皆さんにお伝えするという事は可能です。意見等を出してもらわないよりは、いろいろ出してもらったほうがいいかなと思います。

<会長>

コロナ禍で外出しにくいということで、買い物に行けない高齢者がいるんですよね。

あるいは、配偶者が雇止めになって、生活資金を確保できなくなり、子どもたちに食べさせるものがないという家庭もあります。何とかそのような人達に分けてあげられたらいんじゃないかと思いますが、それがどこまで実現できるか…。

また、コロナによって医療関係の方達が大変ではないかと思います。この辺ですと、大きい病院は中核病院ですが、そこに働く人達がどうなっているのか、給料を高くするとか難しいと思いますが、町で支えあうというのも一つ、大切なことではないかなと思います。

では、他の委員はいかがでしょうか。

<委員>

第5次しばた男女共同参画プランの分析シートですが、21項目ありますよね。そのほかに新規が14項目あり、全部で35項目ありますが、今回は全てやっという考え方でよろしいですか。

<事務局>

現時点で各課から出てきた施策をまとめるとそのような形になっております。ただ、今日の審議会を通して委員の皆様から新たにご提案いただける事業や施策があれば加えていくことは可能です。中には、通常の業務というか、当たり前に行っている仕事を施策に挙げているようなところも正直あり、これに載せるべきだったのかなと思いつつ、ここに挙げたものもあったので、削るべきものは削ったりして、新しく挙げているものもあります。

<委員>

わかりました。

<会長>

地域で生活していて、これはどうなのだろうかというものはありますでしょうか。

他の委員はいかがでしょうか。

<委員>

施策の一覧表を見させていただいて、コロナの関係でこういった達成値なるのか、このコロナの中で実施できるというところ、様々な事業を拝見しました。中止になっているところもありますし、うちの社会福祉協議会の事業も本年度はほぼできなくて、来年度もどうなるかというところがあります。目標達成値が出てこないと評価もできないので、コロナ禍において達成値に達しなくても、それが理由になるのでしょうか。また、達成の評価目標としては到達できるのかなとか、この施策はコロナも加味して作成されているのか疑問に思いました。

<事務局>

施策シートの作成を関係各課に依頼する際、連絡委員から「こういった状況なので、数値目標とかそういったものが通常通りにはいかない。」という声がありました。コロナを加味して今回挙げていただいたのか、確かなことは把握しておりません。

<委員>

全体を見たときに、コロナのこの字も出てこないなどは思いました。

ただ、コロナにくっついてこの施策を展開していくと、今の考えを多少方向転換する必要が出てくる。「コロナ禍だから、やれる範囲でやりましょう」となると、こちらの本筋がぐらつくような気がするんです。コロナ禍においても、何か工夫すればできそうな目標値ってあると思うんですよね。コロナに負けて事業や目標値を縮小してしまうと、ウィズコロナの世界ではやっていけない。これはこれで進めていってもらっていいんじゃないですかね。

<会長>

コロナは、今第三波にあたると言われておりますけれども、私はやはり緊急的に工夫しなければならないことが、かなりあるのではないかと思います。

女性たちにおいては、弱いところにしわ寄せがきています。女性特有のおしゃべりをすることによってリフレッシュしていたのが、コロナでいつものお友達とのおしゃべりができなくなり、家にいることが多くなって夫のDVに遭い、自殺に追い込まれるケースが20代や30代の若者に多くなってきています。女性というのは、上手にフラストレーションを緩和・解消して生きているのに、人と全く会ってはいけない、会ったら感染にしまうという制限をかけられてしまうと、有能な女性たちの生き方がそこで削がれてしまうのではないかなと思います。だからこそ、小規模でも女性が話せる場を作るとか、電話で話をするとか、そういうことが必要ではないかなと思っております。

また、教育の世界においては、規模を縮小したり、Zoom等を活用して遠隔でやればいいのかということで行っていますが、「そんな遠隔授業だったら大学に入った意味がない。」

と退学する学生たちが増えています。そういったことも、若者たちの芽を摘んでいることになっているんじゃないかなと思います。

委員の皆様も、普段の生活の中で男女共同参画を今こそ求められているように思われますので、ぜひご意見を頂戴したいと思います。

<委員>

例えば、コロナを強調して施策や事業を出すとすれば、女性に対するあらゆる暴力の否定とか、雇用の施策とか、具体的に出てくると思うんです。もし会長のご意見を反映させたいなら、きちんと具体化していかないと。また新たにページ数をおこして文章を書き出すと、もう一回みんなで集まって確認しなければならなくなり、二度手間になります。なので、今会長がおっしゃったことを女性に対する暴力の根絶、雇用、介護福祉の徹底の中に一字入れるくらいが、私はいいかと思います。

<会長>

この事業の挙げ方を、各課がもう少し徹底すればいいでしょうね。

女性へのDVがかなり多くなっていることが報道されています。やはり、女性の自殺率の問題には切り込みを入れないといけないんじゃないかなと思います。

介護職においても、支援をするためには本当に密にならないとケアできないですよ。そのためには、防護服が必要だとか、手袋が必要だとか、自分の身を守るために必要な物はあるかと思いますが…。

<事務局>

おっしゃる通りだなという気がいたしました。

目標値の設定の仕方・基準ですが、コロナ禍のような特殊事情は考慮せずに、目標設定したほうが基本的にはいいのではないかと考えています。コロナのような特殊事情がいつやって来るかわからないですし、それが来たときには方法、やり方を変えて、目標を実現するようにやっていくというかたちをとっていくべきなんではないだろうかと考えております。

<会長>

そうですね。やり方というか、具体的なところですよ。

<委員>

このコロナ禍を強調したかったら、目標達成も手段も一項目ずつ書いてあればいいと思うんです。歴史を10年振り返ってみたとき、「第5次プランでは、非常に特殊な状況で男女共同参画が推進されていたんだな。」と見ることができます。非常時の手段を一項入

れておくのは、決して悪いことではないと思いました。

<委員>

当時の生活状況や地理的状況をプランに入れるのではなくて、総括したときに「これはこういう状況だったんだよ。」とか「この状況の中で活動をしたけれども、こういうことがあってこれは実施できなかった。」とか、そういうかたちが望ましいと思います。最初からコロナを入れて策定すると、事業ができなかったときに、みんなコロナのせいにされてしまうと大変なので…。

先ほど会長が言った通り、地域の人達と地域をどう使うかが非常に大事なことです。地域活動を通して、いかに男女共同参画を成功させていくかというのが、このプランの中での進むべき方向として示されているのではないかと思います。

柴田町の行政区は40近くありますが、それぞれに区長さんがいて、防災訓練等いろいろな活動をやっています。私の住んでいる29A行政区では、毎年6月に防災訓練をやっていて、救急の搬送の仕方とか、女性においては、ご飯を炊いておにぎりを作って、参加者みんなに配ったりしています。こういった中で、関連したものがプランの中に入ったときには、全行政区のうち活動が比較的進んでいる行政区に直接行って話を聞くとか、こちらから要望を出すとか、そのようにすれば頭で考えるよりは、よっぽど早く実現するのではないかなと思います。

生涯学習課の施策シートで、「地域活動に積極的に参加できる環境整備」というのがあります。行政区内で何かあったときに「あの行政区に行ってちょっと話して来て。ちょっと聞いて来て。」というのであれば、自分の行政区でみんなを集めて、話はできると思うんです。あとは生涯学習課の人と一緒にいったりしてね。そういうかたちで進めていくと、我々も見えるし、見える化になります。やはり地域住民を動かさないとだめですよ。ね。

<会長>

ありがとうございます。

委員の行政区の状況は少しわかりましたが、一応この審議会は柴田町を中心にしてプランが出来上がってきて、それを点検するというのが我々の今の仕事ではないでしょうか。ですから、計画の方向性はこれでいいかどうか、澤田委員の行政区の活動と照らし合わせて、ご意見があればどんどんおっしゃっていただければありがたいと思います。

<委員>

これからもう少し整理をして、こういうかたちで動いたほうが早く達成できるとかいろいろな施策があると思います。

<委員>

今必要なことは、いろんなやり方やこういうやり方があるとか漠然としたものではなく、これだけの資料が出ているので、どこのどこを直せばそうなるのか、具体的な策が出ないと進まないと思います。

今澤田委員が言った地域活動関係は、「自主防災指導員の養成」として施策シートに書いてあります。ですから、「こういう手段をさらに入れてくれ。そうすれば私たちは簡単に協力できる。」という具体的な策を事務局に提案したほうがいいと思います。

<会長>

せっかくの審議会ですので、私たちの意見が出てくればいいかなと思います。

例えば、自主防災指導員の女性の割合を何割と決めてしまい、必ず出さないといけないとします。現状、直近値で女性の割合は16.4%だったようですが、この行政区からは必ず2人の女性リーダーを出すことと決めてしまうのはだめですか。「出してほしい」という緩やかな促しではなくて、「必ず出しなさい」という固定枠を決めてしまうのはいかがでしょう。

<事務局>

行政区2名以上については、基本目標5のところ、一番最後に「自主防災組織の指導員を養成し、各行政区2名以上の指導員を配置します。」とあります。これは女性だけのことを言っているのか、それとも男性も含めたかたちで言っているのか。ただ、「自主防災指導員の女性の割合」と書いてあるので、2名というのは女性なのかなと思うところがありますが、確認ができていないので、できるだけ配置するかたちにしていこうということで、後で確認させていただいてもよろしいですか。

<会長>

そうですね。そして、その役割を担うと、女性たちも頑張っってやらなくちゃみたいになって張り切ってくれますよね。女性のほうが寿命も長いので、地域で活躍してもらいたいですよね。

<委員>

小さいことですが、「行います」や「配布します」等、言葉の使い方として、ですます体は口述なので、これで文章は書かない方がいいと思います。「〇〇をする」「〇〇を実施する」等、常体に統一する。外に出す文章なので気をつけてもらいたいと思います。

<事務局>

各課からあがってきた事前分析シートを施策シートに転記する際に、事務局側で「である調」に統一させていただきました。

<会長>

その他の委員はいかがでしょうか。

<委員>

コロナの関係がある中で、町としてこの方針でやっていくという、計画としては非常に網羅されていると感じております。既存でやっている事業もありますが、男女共同参画の視点からということで、普段行っている業務も男女共同参画に繋がるということも感じました。

柴田町全体で男女共同参画をどうしていくかということについて、1ページの町内企業の関係ですが、第4次プランから継続の項目だと思うんですけども、例えばここで企業の紹介やモニタリングをして、企業間で競争なんかすると、柴田町の貢献に繋がっている企業もあるんだなということが見えます。また、表彰制度を取り入れて、「こんなことやっていますよ」と認めてあげる。そしてそれが広がっていき、一歩進んだ視点が加わることによって、社会全体に浸透していくのかなと思います。

<会長>

表彰制度いいですね。

<委員>

おっしゃることはわかりますが、企業の中に役場が入っていくのはなかなか難しいし、大変だと思います。

<事務局>

昨年末から行っている「柴田町企業情報ガイダンス」は、コロナの影響で県全体、町としてのイベントやり方、実施の仕方という面から、残念ながら中止としたものです。

<会長>

早い話が、就職ガイダンスですよ。このコロナ禍ですが、「これだけはやる」と大学はかなり力を入れています。学生たちも就職しないと生きていけません。ソーシャルディスタンスやフェイスシールド、いろいろなことを駆使して、一度に入れる学生数を少なくするとか、何回かに分けるとか、工夫の仕方はたくさんあります。学生たちはやはり対面の方が喜ぶます。相手の目の感じとか、お互いの表情とかが見えるので。

なので、それを前提にしてやるのであれば、こういった高校生の就職活動がとても大事になってきます。企業のパンフレットを開いただけとか、インターネットで企業情報を見ただけでは、ぴんとこなかったりします。企業側がちゃんと説明をすると、「とても福利厚生が充実していて、人を大事にしてくれる職場みたいだ。」と思ってくれて、もちろん相性もありますが、そういったのもぜひ残していくことが大事なのではないかと感じました。

他の委員はいかがでしょうか。

<委員>

「定年後の男性を対象とした地域デビューの事業の実施」とありますが、今働いている者からすると、男性だけではないと思います。女性においても、定年後のデビューは一緒なのかなと思いますし、ここでは男性だけとなっているので少し引っかかりました。

<会長>

男性よりも女性は入りにくいというのを感じてですか。

<委員>

だからですかね。働いている女性もだんだん増えていって、そこがどうプラスされるのか、考えてもいいところなのかなというふうに思います。

<委員>

私は来年で83歳になるんですが、定年して退屈したことがないんです。定年と同時に行政区の副区長を頼まれてやり始めて、他にも麻雀愛好会や小学校で読み聞かせの会など、いろいろやっています。なので、退屈するということはまずないですね。楽しく生きています。

<会長>

あくまで成功事例ですが、なかなか出てきにくい男性もいるのは確かかなと思います。

<委員>

地域デビューのためのリーダー育成なんていうのはどうでしょうか。

<会長>

身近な方が仕掛人になるといいかもしれませんね。

<委員>

地域の区長さんや区長さんに準ずるような人達が、地区をまとめるかたちで動きをとれば、先ほどの地域デビューのためのリーダー育成が上手くいくのではないかと思います。

地域には男性も女性も基本的には半々いますが、何か集まりがある時には、女房を行かせて本人はなかなか出てこないというのがありますよね。新年会とかの集まりがあっても、数的には女性の方が多いです。

だから、リーダー育成みたいなかたちで地域から促すことも必要なと思いますので、いい意見だと思います。

<会長>

いいですね。区長さんのリーダー研修みたいな感じで。

<委員>

区長さん次第でその地区が活性化するかどうかというのはありますね。

<会長>

柴田町の議員さんは女性が多いのですごく元気ですね。仕事帰りに、夜も手弁当でみんな集まって勉強会したり、条例作っちゃうんですもんね。

その他何かご意見ございますか。

<委員>

ちょっと外れるかもしれないのですが、現在こちらのA4の資料が出ていますけれども、第4次プランの時にはこれをまとめた一覧で、年2回の審議会の時に「これだけの達成状況ありました。」という具体的な数字が出ていたと思うのですが、あれは継続で、第5次プランでも行うということによろしいですね。

<事務局>

はい。具体的な数値目標をあげてもらって、その事業の内容ですとか、内容から継続していきたいものはそのままというかたちで継続していきます。

<委員>

第4次プランの時にいろいろなところで上手くいっているケースが結構あるので、いいことは継続してもらえたらと思います。

今、コロナの影響で我々が経験したことがないようなことが起こっています。先ほどもDV問題が出ましたが、本当なら男女仲良くしていければいいんですが、夫婦関係というのは、なかなか一概に言えないところがあります。男性が夜どこかで飲んでくるというこ

とができなくて、家に直接帰ったことによって、夫婦関係がうまくいかなかったり…。今まで想像もつかなかったようなことが起こっているんですね。

先ほどの委員のお話の中で「プランとして出したものは、その計画年度の終わりに総括としてコロナの状況のためこういう結果になりました。」とありましたが、確かにそれはそれで私も正しいと思います。

しかし、今もう既にコロナ禍になっています。様々なことが目に見えておかしくなり、今までとは違う部分が出てきているので、やはり具体的な部分を取り上げて出さないといけないのかなと思いました。新しい生活様式、環境も変わってくるので、そういうことも含めて訂正するところは訂正していてもいいのではないかと思います。

<会長>

いみじくも委員がおっしゃったように、コロナの影響をかなり強烈に受けている施策がありますよね。一番は家庭内暴力（DV）ですが、高齢者の問題とか、それをどこに通報するのか、また民生委員がどのように把握しているのか等、いろいろなところがあると思います。若いお母さんだったら、命のホットラインなど、時にそういうところに電話をかけて相談してみるとか、やらなければいけないようなことがきっとあるはずですよ。

「通り一遍のこの施策でどうだ」というふうに終わってしまうのではなく、やはりもう一度見直していただければというのを感じています。

<委員>

会長、それは最初から出せないと思います。プランを推進して行って、結果として何ができて、何ができなかったのか。そのできなかった部分で、例えば「これはコロナに関連していて、こういう部分ができませんでした。」というかたちならいいと思いますが…。

<会長>

それは大筋として全然否定はしておりません。

しかし、そのような状況が発生しているというのが全国で叫ばれ始めていますよね。やはりあとは少し加えるなどの手直しで大丈夫だと思います。審議会というのは、話し合うところだと理解しております。出てきたものを「全てOKですよ」とするところではないはずですので、少し私達が目で見たいというのはいかなと考えております。

<委員>

あとは、第4次プランの施策の評価（案）についてです。全部読んだのですが、「こういう成果がありました。でも失敗したところもありました。今後はこうしていきます。」と、記述の論法としてはいいかなと思いました。LGBTについての文言がありました。同時にコロナ禍の中でも様々な施策を実践していくというような、時代を先取りした

決意もあればよかったのかなと思いました。

<会長>

事務局としては、これを無視するわけにはいかなかったということでしょう。
きっと、もう一つ高いレベルという意味で書いたんですよね。

<事務局>

やはり最近話題になっているのは男女の問題だけではないので、多様な人も交えてという意味を含めて書きました。

<会長>

多様な性というのは重要ですよ。

<委員>

少しいいですか。

お味方をすると、文章を上から順番になぞって読んでいくと、このような誤解を招くような感じになってしまったんだと思います。言葉のやり取りで、例えばこのLGBTの文章を2番目や3番目あたりの段落に持ってきて、最後にこの第4次プランの総括としてよい言葉が持って来られるのではないかと思います。書く順番を上手に変えるだけで、その表現を使っても違和感なく受け取れるのではないかなと思います。

<会長>

そうかもしれませんね。

<事務局>

第4次プランの中でLGBTに関する具体的な施策があったら、この文章を最後に持ってきてまとめにして出しても違和感はなかったと思うのですが、実際第4次プランの中にLGBTを含んだ施策というのはありませんでした。

「さらに」という文字があって、総評的なところでこの文言を持ってきてしまったので、ちょっと文章がおかしくなってしまったのかなというのがあります。順番を振り替えて、先ほど委員がおっしゃったコロナ関係の文言を加えて、こういった高評価ができるという文章を最後に持ってくれば、収まりが良くなるのではないかなと思います。

<会長>

では、この評価（案）に関しては、今意見が出ましたが、事務局に依頼するということがよろしいでしょうか。

あとは、第5次プランについては、注文つけてもよろしいということで、ご意見等あればお願いします。

<委員>

事務局でこれを作成するにあたって、例えば第4次プランを作った時にはなかった新しい出来事ということで入れたということですか。

第4次プランを作ってから5年が経っているので、状況はいろいろ変わっていますよね。そうすると、男女共同参画の考え方として、やはり変化が表れているんじゃないかなと思うんですね。先ほど大槻委員から「女性を持ち上げるだけではなく、本来の男女平等という考え方で、物事を捉えないとおかしくなっているのではないのか。」という意見が出ましたが、私もそのように思います。女性、女性というばかりではなくて、地区などで埋もれている男性もいるので、そういう人達を掘り起こすなど、そのようなことも含めて考えてもいいのかなと思いました。

<会長>

それは新規ということで、ここに挙がってきています。

第4次プランにはなかったものが、A3カラー刷りのところで、必ずしも男性を意識したものじゃなくて、子どものことも意識した「乳児全戸訪問事業」や「産後ケア事業」等、そういったのが見受けられますね。そして、生活困窮者が地域や家庭で安心して生活できるようにという、こういった事業も新規で出てきています。

<事務局>

例えば、基本目標2「がん検診の実施」という事業名が挙がっていますが、第4次プランにおいては「女性特有の疾病に関してだけ検診を実施する」というかたちで目標が挙がっていたのですが、今回の第5次プランにおいては、「女性だけに限らず、男性も、全ての方にがん検診を実施しましょう」ということで、今回新規の事業として挙がっています。

<会長>

いいですね。

今や2人に1人ががんで亡くなる時代になりました。そういうのもよろしいのではないのでしょうか。

<委員>

健康推進課の分析シートで、「これまで町民の死亡原因はがんが『不動のトップ』～」という表現の仕方がありますが、言葉の使い方としてあまりよろしくないのではないかと思います。例えば「原因はがんが突出している」とか、身体的なことに関して書くときは気をつけていただきたいですね。

<会長>

「不動のトップ」は日本語として馴染まないですね。良い意味での不動だったらいいのですが、少しデリケートさが必要かもしれません。

「疾病構造上の死因の第一位を占めている」等、他の文言がいいと思います。

<委員>

あと、教育総務課の分析シートで「人権教室の開催」があります。現状8校が参加しているところを目標は9校にしたいということですが、残り1校はどこですか。

あとは、企業が出す文章はカタカナだらけで本当に読みにくいですが、この資料はとても読みやすいです。きちんとした日本語、ひらがなで書かれていると、とても肌触りが良いですね。

<会長>

住民を相手にしたわかりやすい言葉遣いになるといいですね。

他の委員は、あとは何かありませんか。

<委員>

みなさんのご意見を聞きまして、いろいろ参考になりました。

<会長>

雑談の中にも気づいたことがかなり出たかと思います。その他にご意見ありますでしょうか。

それでは、その他ということで事務局にお返しいたします。

4. その他

様々な議論をいただきまして、大変ありがとうございました。

今、会長からありましたように、雑談の中で出たヒントもあると思います。我々も持ち帰って、いろいろ参考にさせていただきながら修正するものは修正して、また皆様にお示しできればいいかなと思いました。

それでは議題を終了させていただきます。

5. 閉会

【副会長あいさつ】

本日は、粉雪が舞い散る寒い中、ご参加いただきどうもありがとうございました。いつもよりも内容の濃い審議会になったと思います。以上で、審議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。